

主力「ロイヤルブレッド」は好調も、前年未達。当社独自技術による品質をもって回復を図る

	上半期	下半期	通期	平均単価	数量
連結売上高（前期比）	488億円（95.1%）	464億円（104.7%）	952億円（99.5%）	0.7%上昇	4.2%減少

平均単価、数量は  
（単体）市販用食パン実績

- ・第4四半期に新規連結寄与を計上。ヤマザキパン単体の売上は前期比96.5%。
- ・主力の「ロイヤルブレッド」が順調に売上を伸ばすも、「超芳醇」、「低価格帯食パン」などが苦戦。

## ロイヤルブレッド (255億円、104.9%)

- ・お客様に支持いただき、更に売上を伸ばす。今期発売10周年。

## 超芳醇 (76億円、86.9%)

- ・昨年4月に健康志向の「超芳醇（塩分50%カット）」、7月に高級志向の「超芳醇ゴールド」を発売。今期も引き続き取り組む。

## ダブルソフト (87億円、98.1%)

- ・昨年11月にプレミアムにおいて規格のグレードアップを実施、1月に高級規格の「ダブルソフトプレミアム」を発売。売上拡大を図る。

## ふんわり食パン (55億円、97.5%)

- ・ルヴァン種活用。「乳酸菌」配合、健康志向への訴求で回復を図る。

## 「ゴールド」シリーズ (46億円、90.9%)

- ・3月にルヴァン種活用の「あずきゴールド」発売。シリーズでの回復を図る。

## 低価格帯食パン群 (151億円、91.7%)

- ・昨年10月「モーニングスター」リニューアル。今期はチェーン対応にも注力。回復を図る。

## サンドイッチ用食パン (118億円、98.3%)

- ・1月にDY向けサンドイッチ用食パンの品質改善実施。品質をもって回復を図る。



（ロイヤルブレッド）



（超芳醇）



（ダブルソフト）



（ダブルソフトプレミアム）

主力3大ブランドを中心に、更なる品質向上と市場ニーズを捉えたブランド別戦略により売上回復を図る